

「ロゴマークを軸とした展開。」

が特長のグラフィックデ

ザイナー永井弘

人による、「日常とデザ

インの間口を拡げる雑文集。」



永井弘し

## はじめまして

このたびは、『ロゴマークを軸とした展開。』が特長のグラフィックデザイナー永井弘人による、『日常とデザインの間口を拡げる雑文集。』を手にとっていただき、ありがとうございます。私、グラフィックデザイナーの永井弘人と申します。実にうさんくさい、長いタイトルはさておき、簡単に自己紹介を。

## 永井弘人ながいひろと

グラフィックデザイナー・日本タイポグラフィ協会正会員・東京デザイナー学院非常勤講師

1984年、東京都生まれ。明治大学・東京デザイナー学院卒業後、デザイン会社2社（メーカー・商業施設の広告・グラフィック制作／飲食・物販・医院における、ブランドコンサルティングを軸にした制作）を経て、2011年に「アトオシ」設立。「ロゴマークを軸とした展開。」というコンセプトにて、飲食店・物販店・医院・中小企業等、V.I.C.I・ブランディングを中心としたグラフィックデザインを制作・展開し続けています。また、近年は、地域活性を目的としたプロジェクトにも積極的に取り組んでいます。

2012年、東京デザイナー学院非常勤講師就任。2013年、日本タイポグラフィ年鑑入選・日本パッケージデザイン大賞入選。2014年、日本タイポグラフィ協会入会。「日本タイポグラフィ年鑑2013」「ショップバイメージグ

ラフィックスヨ「Logo+」「地域発ヒット商品のデザイン」（バイインターナショナル＋ピエ・ブックス）／「年鑑日本のパッケージデザイン2013」（六耀社）／「美術手帖 大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ2012 公式ガイドブック」（美術出版社）掲載。他、複数受賞・複数掲載。

よくあるデザイナーさんのカッコ良さを雰囲気を出して、ではなく、人間くさく、だっさいところも丸出しに、日常とデザインの間口を拡げている最中です。グラフィックデザイン業界一、いい塩梅のいい加減な人を目指していますが、あまり公には話せないでいます。ありがとうございます。

## 本書のコンセプト

日常の中で、なんかいいな、と感じる瞬間こそ、より良いロゴ・デザインをうむ大切な栄養素。私はそう考えています。グラフィックデザインをメインに行っている人が、普段なにを考えて、どんな行動をしているか。くだらなさあふれる、リアルなデザイナーの日常をさらけ出します。「デザインを身近に感じ、日常の中にデザインを取り入れたくなる」そんな気持ちを後押しする雑文集になればと思っています。そんなコンセプトの活動・発信の場が、「本日のアトオシ」（[www.today.atoshi.com](http://www.today.atoshi.com)）というWebサイト。本書は、「本日のアトオシ」から美味しいところを抜粋した雑文集です。

## こんな人のために雑文を書いています

- ◎ 日常をゆるく、ながく、楽しみたい人
- ◎ サブカル・サブカルチャーに興味のある人
- ◎ これから、日常にデザインを取り入れようと思っている人
- ◎ リアルな、デザイナーの日常に興味がある人
- ◎ ロゴ・デザインに興味のある人

私は、「アトオシ」([www.atoshi.com](http://www.atoshi.com))という屋号にてグラフィックデザインをメインに活動しています。デザインが前にくるのではなく、あくまでも“人”を前に。“人”が、こうなったらいいな、と思うことに向かう、後押し（＝デザイン）となる。アトオシは私の理念であり、日々発信する雑文（＝本日のアトオシ）も、想いは同じなのです。今、手にとっていた方、本書がどう役立つか。……そんなことより、ページをペラペラとめくってみてください。きっと、なにかしらのヒントがごろごろと転がっているはずですよ。ゆるく、ながく。なんか、いいな。に向かって。それでは、日常の中でお会いしましょう。

# 目次

---

|                       |     |
|-----------------------|-----|
| 日常とデザインの間口を拓ける雑文 2013 | 09  |
| ある日のインタビュー            | 71  |
| 日常とデザインの間口を拓ける雑文 2014 | 81  |
| 締め言葉                  | 126 |

# 日常とデザインの間口を広げる雑文 2013



## 美味しい時間の。 2013.8.15

夏の夜は色々と考ええる。我武者羅な状態は、文字通り後先も考えずに進んでいるわけだが、ふとした小休憩。おいてけぼりにした、「自身の後先」とちゃんと向き合う時間を持つ。笹塚駅のエクセルシオールにて。長居してごめんなさい。一杯目は美味しい時間の購入。二杯目は美味しい時間の御礼。おかげで答えが出ました。

## プレイバック全力疾走。 2013.8.16

青春バンクロックを聴きながら作業をガンガンと進行していたら（アァー！と歌いながら）、プツツと意識が途絶えていた。騒がしい蝉の鳴き声とお洒落な「WAVE」のBGMで起きる。そのまま聴いている。ラジドのテーマはプレイバック全力疾走。今日もまた、走り出せそうだ。

## 充電中。 2013.8.17

陽に当たりながらの読書は最高だ。光合成しながら、もういつこの世界に入り込めるなんて、なんともお得感満載である。たまに水分補給をしながら、ページをめくる度に汗がポロリと流れ落ちる。となりのペンチでは休憩中（サボリ？）の警備員。なんとなく

目をやるタイミングが一致する。目が合う。蚊にくわれた。

**くだらない、とは。** 2013.8.18

くだらない、とはなんでしようか。一般的に「面白い」と感じることに反すること？ それならば、その「面白い」とは？ 流行にのった趣向。ゴールデンタイムに流れるテレビの企画。それよりも、空気を共有できる人にしか伝わらないこと。思わずプフツと笑ってしまうような、くだらなさ。限られた時と場は貴重であると考えます。くだる、は、くだらない。くだらない、は、くだらなくない。日常をくだらなさで魅せる。それはもう一つの使命であると気付きました。笹塚のエクセルシオールにて。僕は旅立つんだ。

**空。** 2013.8.19

電線にとまっているハトを下から見上げたら、すごく小刻みにバランスとっていて、なんだか応援したくなったよ。

**誰もが初めては初めてだった。** 2013.8.20

演劇というエンターテインメント。キ・カンパニー第1回公演『出発』。初めての演劇。



めまぐるしい日常に風穴をあけられた。そんな気分だった。一体となった空間の中、生身の人間同士が、笑い、泣き、笑う。映画やテレビでも味わえるけど、なかなか、たどりつけない領域。雑誌にのるようなお洒落なカフェで過ごす時間、と、ほぼイコールな時間。今は当たり前前にやっている、その趣味も、今は当たり前前に聴いている、そのお気に入りのアーティストも、ふれあう初めての瞬間があったと思う。とても刺激的な瞬間。キ・カンパニー 第8回公演『同族』は、心のどこかで刺激を求め続けるあなたに、“新たな楽しみ”という名の感覚を呼び覚ますことになるだろう。（まだ、見てないけど。）

## 変換術。 2013.8.23

気がふれちゃうほどにおかしな出来事。笑いに逃げる、いやむしろ攻めるのだよ。そんな時は。おかしいことをおかしいってストレートに言う、白い目をむけられちゃうものだから。笑いに変換する。決して愚痴ではなく、そうすつと、ネタを提供してくれてありがとう、って思うわけです。ありがとう。おかしい出来事たちよ。

## ぐるっと。 2013.8.24

バスに乗っている。もうすぐ終点。駅は目の前。すっごい近い。最終コーナーのロータリー。

## ちよっとしたお金の話。 2013.9.13

公園のトイレに入ったら、壁に、「金は愛の力に勝ることができない。しかし、金の力を借りなければ、愛を継続することができない。」という落書きがされてて、なるほどお……と、ぼんやりしながら用を足していたら、少し手にひっかけてしまったよ。水の力を借りよう。ハンカチーフもね。セブンイレブンで、おにぎり100円セールつてのがたまにやあって、いつもは「ツナマヨ（105円）」をかうんだけど、ここぞとばかりに「荒挽きソーセージ（138円）」を手取る。そして、食べた時に気付くんだった。ああ、ツナマヨの力は偉大だ。お金は関係ないんだ。つて。100円セールがくる度に、同じことを繰り返しているんだ。

## 風習の哀愁。 2013.9.14

家の裏にあるコンビニが閉店した。チェーン系ではない、マイナーコンビニ。よく菓子パンと野菜ジュースを買っては、となりの公園ベンチに座って食べてた。学校帰りに遊ぶ、地元の小学生を眺めながら。その流れ、雰囲気がよくあった。冬はあんまん。入れたてのパッサパサだったり、入れすぎのグッチャグチャだったり、いい蒸し加減の時があまりなかったけど、それもまた味でした。月並みだけど、地味に大切なモノやコトって、なくなっ

## スッパイ好き。 2013.9.24

ひっさびさにミカン食べた。この時期のはまだスッパイ。スッパイもの全般が好きだから、緑色ミカンは僕の期待をふくらめます。どんだけスッパイのかな〜わくわく……スッパ！ここまで求めてねーよ！その後の水が最高ですね。【スッパイ好きの方へメッセージ】ちなみに干し梅も好きです。はちみつ入りのは、ちと勘弁。エナジードリンクでロックスターつてのがあって、先に干し梅を口の中に入れ、ロックスターを後入れする。すると、口の中で革命が起こります。スッペー！という両目をつぶりながらも、口元笑う、そんな領域に僕を連れて行ってくれるのだからたまらない。ウメ法師、元気かな。

## くいしんぼ 2013.9.26

くいしんぼに久しぶりにいった。リーズナブルに量を求めて肉を食べたい時はここに限る。本日食したのは高円寺店。学生の頃は神保町店。サークルテニスプレイの後、6〜8名ぐらい束になってよく行っていた。もうメニューからはなくなっちゃってしまっていたが、必ずといっていいほど頼んでいたのが、「3 / 4 ポンドステーキ」。その名の通り、3 / 4（ヨンブンノサン）ポンド、約340グラムというサイズ肉が出てくる。これで約千円。味や肉の固さなんか全く気にせず、とにかく肉にくらいついた。毎週、いや、

## ワイン。 2013.10.22

カジュアルリッチをコンセプトとした焼肉店、を経営される方。お店に出すワインをどのように選定するか、というお話し。味？産地？価格？いやいや、ちがうよ。パッケージ、だよ。テーブルの上に置かれた際、最も映えるポイント。選定する時は、まずパッケージデザインを見た上、飾にかけ、その後、味・価格のバランスを精査するのだとおっしゃった。第一印象って大事。その奥に潜む品も大事。むしろ品があれば、自然と側もよくなるはずだ。それは商品そのものだけではなく、その商品を扱う人の考えも大きく影響される。私、アルコールが苦手なのですが、グレイプジュースならゴクゴク飲めます。

## 流れてた。 2013.10.23

「Twitterで、努力はうんこだ。毎日するけど、人に見せるものではない。つてのが流れてて、なかなか確信をついていてと感じました。ため過ぎも良くない、だからたまに出しました。う。お食事中にすみません。にじみ出る！

## ドッグレース。 2013.10.25

汚い話し続きで申し訳ないのだが、ウンチ関連で少し伝えたいことがある。あれは、専

## 楽しみのコスプレ。 2013.11.1

今夜はとんでもない現象が起きているのだろう。渋谷あたりでは。コスプレは、なんというのだろうか、見る者をワクワクさせる。ドキドキ。ワクワク。非日常を楽しむ行為か。露出の際どいコスプレで、クラブに乱入し、「今が楽しい。今が最高。」という雰囲気、渦に身を投げる。ハロウィンか。なんか、楽しい、ではなく、サイッコー！と心より楽しむ。そんな風に思える時間。というか、瞬間。実は皆、平等な質量が定められている、と考える。渋谷でワーワーと騒ぎはしゃぐ全員が、心より楽しんでいるかどうか、疑問を感じる。余計なお世話！つまりは、コスプレをしそうな娘がコスプレをするより、コスプレをしなさそうな娘がコスプレをする方が断然、期待感が膨れ上がる。というわけだ。

## 運。 2013.11.3

フリーのコーダーの方と話した。今、食えているのは、数ある運（ラッキー）が重なったこと。いやあ、ホント、ラッキーだったな。と。僕はこう思う。何事もラッキーだと感じ取れる、その前向きな性格が、次の運を呼び込んでいると……。そういえば、ラッキーで思い出した。小学校の、たしか世田谷の経堂小学校だった、その同級生がお金持ちで、ラッキーというコリー犬を飼っていた。高そうな一軒家に似合うコリー犬。お金

## ある日のインタビュー



## 独立までの「いままで」と「これから」、「デザインの価値」について

ここに載せる内容は、2014年に受けた、クリエイター紹介サイト「平成制作者便覧（2015年に公開予定）」のインタビュアーである。本書内に被る内容が多少あるが、本当に伝えたいことは複数回いうべき、というどこかで聞いたプレゼン方法を踏まえ、そのまま載せる。ほんのちよっぴり、独立やデザイン取り入れの参考になれば幸いです。

## 大学時代に知ったデザインの楽しさ

— 永井さんがデザイナーを目指されたきっかけってなんですか？

大学時代に入っていたテニスサークルでTシャツを作ろう、という話になりました。昔から素人なりにイラストをずっと描いてきたので、もしかしたらできるかも！ と思い、立候補しました。

どういうのがいいかな？ って皆に聞いて、作っていったんですね。意見をもとに、制作して、入稿して、プリントアウトして。完成したTシャツを皆が着て喜んでいる。これがすごく面白かったです。この工程を体験したときに、「これで飯、食っていいくらいなあ。」と気づきました。

ちょうどその頃、就職活動が始まる時期だったんですけど、親に「このタイミングで本当に申し訳ないけど、学費は自分で払うから。」と頭を下げ、大学とダブルスクールでデザイン専門学校に通うことになったんです。

—それは思い切った決断ですね！

はい。でも、やはり色々と挫折がありました。自分よりも年下の子の絵がめちゃくちゃ上手かったり。またそういう子に限って性格良くて（笑）。常になにかしらでぐあーっと悔しさを感じていましたね。学校ではヒアリングだったり、デザインコンセプトを具現化して、提案して、擦り合わせていくことを学びました。自分だけが満足するんじゃないって、人に対してデザインを提供していくプロセスがとても楽しかった。

—大学を中退しようとは思わなかったですか？

そうですね。サークルの友人とくだらないことで笑いあってる時間が生き甲斐の一つだったので、中退は考えなかったですね。



## 転職中に気づかされたデザイナーとしての志

—就職した会社では、どんな仕事をされてたんですか？

一社目は、組む仕事が多かったです。ディレクションをするわけではなく、素材や方向性が決まった、代理店から降りてきた仕事を組むという感じですね。入社してすぐは新鮮で楽しかったんですが、途中から、ずっとこの仕事をやっていくのは……と感じて。それで転職を考えました。ただ、転職先を探すにも、同じような会社に入っては力がつかないと思い、自主制作を始めました。上から与えられる範疇、以上の仕事があったんです。

終電で帰ってきて、朝の5時くらいまで自主制作して、また会社に行くという日々でした。そんな生活を2年半くらい続け、必死に道を拓いて行こうとしてました。大変だったし、色々ありましたけど、今振り返ると楽しかったですね。

作品が増え、準備も整い、転職活動を始めました。当時は明確な理由もなく、有名なデザイン会社に入りたくて、募集があってもなくてもポートフォリオを送っていました。これが全然受からなくて……そりゃそうだ（笑）。

そんな時、某名の知れたデザイン会社の筆記試験・作品選考を通過、最終面接でディレ

# 日常とデザインの間口を広げる雑文 2014



## 年賀状。 2014.1.1

グラフィックデザイナーとして、人と交わる紙媒体のツールは本腰を入れなきゃならない。そして、年賀状は一年の中でも、グッと力を入れたい、入れなければならぬツールなのです。基本、デザインを行う上で、なぜそのデザインが必要か、クライアントさまの目的を汲み取ることが必要となってくるのですが、自分自身が制作する年賀状の場合、自分自身で目的を定める必要があるのです。そんなじゃあ、その目的は？ 僕は「新年の抱負」にしています。「新年の抱負」を形にした後、入稿、自宅に納品。納品した年賀状に、自宅プリンターで送り先の住所を印刷。料金別納郵便なので、そのまま郵便局に持っていけば、送れるのですが、ちよつとまった！ やはり、手書きの味がほしいじゃあないですか。こればかりは、印刷技術がどんなに進んだとしても、魂の込め具合の嬉しさは追いつかないじゃないのか。特に女性。女の子の手書きは、もうなんともいえない念が込められております。僕はクソみたいに字が汚いことで有名なのですが、年賀状を送る時は、一通一通、手書きメッセージを書くようにしています。ここで、気づいたことが。仲の良い・気をつかわない相手ほど、伝えたいメッセージが湧く湧く。まだ知り合ったばかり・緊張する相手ほど、形式ばったメッセージになる。クソ当たり前のことのように、そもそも、手書きでメッセージを書いたからこその当たり前の気づき。この一年を通し、

形式ばったメッセージをいい意味でくずせるような、そんな関係性を築く。そんな一年になるよう、力を重ねていきます。本年も何卒、よろしくお願いいたします。

## 青山ひかる。

2014.13

デザイナーたる者、常に新しい情報にアンテナをはらなければならない。今日は「Twitterで見つけた、素晴らしい人物を紹介したいと思う。その名は、「青山ひかる」さんだ。<http://ameblo.jp/hikaru06kon/>（公式ブログ）特にためらいもせずリンク先を開いておどろいた方、いないと思うが、もしかしたらいるのかもしれない。ただ、勘違いをしないでほしい。私がこの方の素晴らしさを感じたのは、目だ。様々な人に会う。まず目を見る。ものの数秒、目を見れば、たいていの情報はわかる、わかっってしまう。そう、犬が犬の肛門を嗅ぐように。目には今まで積みかさねてきた人生を語る、多大なる情報が集約されているのだ。決して、胸だけを見ていたわけではない。ちなみに、「青山ひかる」さんの目を見て感じたこと。個人的にドストライク・大好物な顔立ちである。しかし、深入りすると超危険。そんなリミッターがぶっ壊れそうな程、男性を惑わす、大きい振り幅をもったアイなのだ。ブームがきてほしいと感じながら、自分だけのものでいてほしい。そんな希望の狭間をいつたりきたりさせる、素晴らしい人物だと私のアンテナがピンピン受信したのでした。今、正月だぞ。

## サブカルで食う。 2014.1.4

今さらながらに、大槻ケンヂさんの「サブカルで食う」を読む。どうしようもない劣等感や悩み続ける状況。開き直るのではなく、どう生かすか。イカす！そして、継続。なにを、なぜ、表現し続けるのですか。あなた様は。イコール生き甲斐になるのであれば、もうこの上ない。今日を、明日を楽しもう。お金はほしいよ。そりゃあほしい。でもそれを、人生の優先順位トップ1にするのは切ない。人を蹴落したり、人を騙すに近い（中抜きとかね）ことをやっているんじや、人に向けた表現者として本末転倒。トップ1にするのであれば、バンバン回して稼げる業界にいった方がいい。2014年現在において、デザイン業界は、めちゃくちゃ稼きたい！野心の方は、鼻息荒く入ってくるべきではないと。かといって、先が暗いとはまったくもって感じてなく、むしろ、もっともっと開拓できる業界だからこそ、面白いし、やりがいを感じるのだ。たまらんね。あせらず、コツコツとやっていきますよ。素敵な日々を。今日を楽しめない奴に、明日なんて来やしない、ってTHE COLTSも歌ってた。

## THE COLTS。 2014.1.5

高校生の時、良く聴いていた、THE COLTS。第二期の囚人服を着て、アメリカン・オールド・

## 反動を生かす。 2014.1.25

今週金曜にあったプレゼンが終わり、緊張の糸がとぎれ、疲れのようなものが内面からあふれ出し、そこから泥のように眠り続けた。ここ数日の睡眠時間を伝えたら、きつと驚愕するだろう。寝すぎた。フリーランスのグラフィックデザイナー、という肩書きから、「時間術をバリバリ使いこなすクリエイター」などと思われがちだが、実際、ダメな時はとことんダメになる。自分の場合は、そのスタイルは、学生の中から変わっていない。コンコンと寝続けた期間は、引きこもりの状態に近い。少し起きれば、あーだるいわぁ…など言いながら、チョコバイを2個たべて、またすぐ寝るというあり様。でも、これでいいのである。次のターンで、とことんなダメさの反動を生かすのである。だからこそ、ダメになる時は思いつ切りダメになるのであゝる。いい意味で。

## アンニュイな女性。 2014.1.26

声優「おみむらまゆこ」さんをご存知だろうか。常に鼻声のような、甘ったるい響きを感じさせてくれる声優さんだ。アンニュイな女性、というのはまさにこのような方を指すのではないだろうか。はじめて彼女の存在を知ったのは高校の時。先日ふれた、「D4 プリンセス」というOVAに「星ル」という役で出演していた。(当時は、麻績村まゆ子、

## 愛の質量。 2014.2.15

若いうちは金を持たん方がいい。といったのは、星野監督。若いうちはモテン方がいい。というのは、私の言葉。あれは小学校一年生。バレンタインデー。幼稚園の時は、先生が皆に配るという風習があり、そんなイベントかーなどと思っていたものだが、小学生に入ると、バレンタインつてのは女の子が好みの男の子にチョコを渡す日、マジか！ 楽しげ、ワクワクを予感させる噂はすぐに耳に入ってくるものである。ワクワク。そして当日、1個ももらえず帰宅。背中を丸めて家に着くと、察していたのか母が1個渡してくれた。チョコ。なんだか切なくて悔しくて、意味もわからず申し訳なくて涙が出てきた。モテるというのは生まれつきなんじゃないか！ 不公平だ！ …10代はそんな考えが軸となり、生きてきた。が、今はそれで良かったと感じている。若い時、モテなくてよかった。モテる、モテないというのは人によって異なるかもしれないが、人が一生に愛せる質量は、皆同じなのである。そのことに気づいたことが何より大きい。若い時、モテるからといって、アッチコッチソッチと愛をバラまきまくっていたアイツは、今はまるくなっちゃっている（いてほしい）。つまり。妻からもらった1個のチョコは、何よりも味が濃密なのである。

## 名刺は分身。 2014.2.17

名刺の制作を依頼される。話を聞くと、私が名刺を受け渡しをする相手は、基本、事前にアポイ

## バーコ印刷と乳輪。 2014.3.5

バーコ印刷の盛り上げ感。つやのある、モコツと感。あの起伏は艶かしい。ついつい指でなぞりたくなるそれは、女性の乳輪にもみえてくる。乳首ではない、乳輪だ。肌部分が紙地とするならば、乳輪がバーコ。こう、少しテクスチャがありながらも、なぜかスルスルしたイメージ。不思議だ。こんな時間に、なぜこんなこと書いているのか、不思議だ。

## 当たって砕ける。 2014.3.6

通り過ぎてでも残るひっかかり。相手を気遣う、伝えない後悔よりも、正直に伝えてぶつかった方がいいと思います。最終的に判断するのは、相手です。当たって砕ける。言うのは簡単。実行はなかなかむずかしいわ！直球の時もあるけれど、サラサラッと伝える。伝わってえー。〇〇頼み。頼むわ！そういえば、サザンの歌で、当たって砕けろって歌があったね。あれ、好き。初期のサザン、めっちゃ好き。

## 太勝軒。ヤングマガジン。 2014.3.7

小学生高学年の時。永福町の太勝軒に並んでいた。母と一緒に。ものすごいこんでいる店内。ようやく席があき、座る。ラーメンがくるまで、時間がかかる。店員さんがラン



**九品仏。D&DEPARTMENT。** 2014.3.30

久しぶりに、九品仏のD&DEPARTMENTに行ってきた。シャレオツなランチを食べるわけだが、ここの楽しみはなんといってもトイレ。昔のオフィスビルそのままだから、トイレもそのまま。網に入ったレモン石けんはさすがにないが、小学校の時を思い出す。なぜ、学校のトイレでウンコをすることがいけないのか。いや、いけなくはない。ただ、恰好のネタとされる。ウンコをすることが、だ。皆がする行為だろう。なぜ、個室の上から、水を含んだティッシュゴミを投げ入れなければならない。（水ティッシュ爆弾なるものが流行っていた。）女子はいい。全個室だ。シッコだろうが、ウンコだろうが、バレない。んだよね？かなりお腹がゆるい方なので、良くウンコが出る体質なのです。会社時代も困りました。これでもかというぐらい、ブリブリ。会社のトイレで。トイレ時間数がやっぱ長いから、あれ？ウンコかな？と。フリーランスになったのも、ゆっくりウンコができるから。一因！一因！一因！一因！一因！一因！

**桜色。** 2014.3.31

桜の季節だ。桜、といえば、やはり、カードキャプターさくら。女性漫画家集団、CLAMPの作品である。高校生の時、この劇場版にオタク友達と集団で行った、楽しい記憶

「ロゴマークを軸とした展開。」が  
特長のグラフィックデザイナー永井弘人による、  
「日常とデザインの間口を広げる雑文集。」

2014年11月24日 発行

著者 永井弘人  
発行 アトオシ  
158.0092 東京都世田谷区野毛 2.10.11.306  
t 03.6809.8115 info@atooshi.com  
撮影 服部恵介  
イラスト ヒラヤマハルタカ  
印刷 株式会社グラフィック  
© atooshi. All rights reserved.

アトオシ  
デザイン事例紹介 オフィシャルWebサイト

[www.atooshi.com](http://www.atooshi.com)



本日のアトオシとは…「ロゴマークを軸とした展開。」が特長のグラフィックデザイナー永井弘人による、「日常とデザインの間口を広げる雑文集。」日常の中で、なんかいいな、と感じる。デザインを身近に感じ、日常の中にデザインを取り入れたいくなる。そんな気持ちを後押しする雑文集です(表向きは)。

[today.atooshi.com](http://today.atooshi.com) にて、日々更新中

\* 本PDFは、ページを抜粋したサンプル版です。

## 著者 プロフィール

### 永井 弘人

アトシ デイレクター・グラフィックデザイナー  
東京デザイナー学院 非常勤講師  
日本タイポグラフィ協会 正会員



1984年、東京都生まれ。明治大学・東京デザイナー学院卒業後、デザイン会社2社（メーカー・商業施設の広告・グラフィック制作／飲食・物販・医院における、ブランドコンサルティングを軸にした制作）を経て、2011年にアトシ設立。

「ロゴマークを軸とした展開。」というコンセプトにて、飲食店・物販店・医院・中小企業等、VI・CI・ブランディングを中心としたグラフィックデザインを制作・展開し続けている。近年は、地域活性を目的としたプロジェクトにも積極的に取り組んでいる。

2012年、東京デザイナー学院非常勤講師就任。2013年、日本タイポグラフィ年鑑入選・日本パッケージデザイン大賞入選。2014年、日本タイポグラフィ協会入会。

## 受賞歴

- 2013年 「日本タイポグラフィ年鑑2013」 入選  
「日本パッケージデザイン大賞2013」 入選
- 2012年 「Roooots 名産品リデザインプロジェクト2012」 採用受賞
- 2011年 「六本木デザイナーズフラッグコンテスト2011」 入選
- 2008年 「東京ミッドタウン 年賀状千人展」 年賀状千人賞受賞
- 2007年 「第4回“若者によるエコ・メッセージ”ポスターデザイン」 入選
- 2006年 「第8回POP広告大賞」 銅賞受賞  
「第5回レッセドラ(ブルガリア)国際小版画展」 入選  
他 複数受賞

## 掲載歴

- 2014年 「ショップイメージ グラフィックス in Tokyo+」 掲載 (バイ インターナショナル + ビエ・ブックス)  
「タイポグラフィックス・ディー」 掲載 (日本タイポグラフィ協会)  
「地域発 ヒット商品のデザイン」 掲載 (バイ インターナショナル + ビエ・ブックス)  
「一瞬で心をつかむ パッケージデザインの見本帳」 掲載 (エムディエヌコーポレーション)
- 2013年 「日本タイポグラフィ年鑑2013」 掲載 (バイ インターナショナル + ビエ・ブックス)  
「年鑑日本のパッケージデザイン2013」 掲載 (六耀社)
- 2012年 「美術手帖 越後妻有・大地の芸術祭2012 公式ガイドブック」 掲載 (美術出版社)  
「月刊アドセレクト vol.42 イベント・キャンペーン特集」 掲載 (リブラ出版)  
「月刊アドセレクト vol.40 ショップツール特集」 掲載 (リブラ出版)  
「月刊アドセレクト vol.38 CI・ロゴマーク特集」 掲載 (リブラ出版)  
他 複数掲載

『『ロゴマークを軸とした展開。』が特長の  
グラフィックデザイナー永井弘人による、  
『日常とデザインの間口を拡げる雑文集。』』の感想メッセージから抜粋！



K-nos

★★★★★ 時々出るまじめな文のギャップにぐっと来ます

形式: Kindle版

表紙のシュールさに驚きました。

1ページあたり1〜2つずつぐらいのコラム集です

すごく人間臭い文にくすっと来ます

一見少し量があるのかな……？と、思わせといてコラム集によって区切りが多いので

一気に読みたい人にも、少しずつ読みたい人、電車等の空き時間で読みたい人にもお勧めです!!

説明文にあるようにほとんどが日常を切り取った雑文集ですが、

特に見所はデザインの、まじめな話ですかね。日常話とのギャップが相俟ってぐっときます……！

「ああ、あるある（笑）」から「おお、なるほど（驚）」までよりどりみどりでしかね^^

本当に、軽い気持ちで読める本です。



赤川君

★★★★★ クスッと笑えます！

形式: Kindle版

内容はタイトル通り雑文集ですが、一つ一つの話が短く片手間に読めるのでちょっとした隙にふと読むととても楽しめました

内容はデザイナーさん目線のものだったり日常的なものだったりと色々です…コラム漫画とかになったら面白そう…

楽しめたので星5つの評価です！